



▼渋柿を剥く住職



『孫と干し柿と』

今年も年末恒例の干し柿作りをしました
孫と食べるのが楽しみです。

しんらん同人

No.559

11.12
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

年末を前に、恒例行事となりました「次年度カレンダーへの法座日程の押印」に取り組みながら、予測できない時代が来ていることを実感致しました。

誓願寺では、長年にわたり毎月の第二・第四曜日に法座を当たり前のように開催してまいりましたが、コロナ感染予防の時代、皆様にお知らせした法座を計画通りに開催できるか、確信をもって対応することが出来ないということです。

先が見えない・思う通りに行かないのが人生であり、このことが「苦」のはじまりです。分かっていたつもりでも考えさせられます。

計画を立て、準備を進め、その場に臨み最善を尽くす。一生懸命の人生を送りたいものです。その先にはお浄土があるという安心を持ちながら・・・です。

報恩講のお知らせ

11月22日 日 午後1時より

〔場所：誓願寺〕

「報恩講」は、親鸞聖人のご遺徳を偲ぶとともに、阿弥陀さまのご恩に報謝し営まれる法要です。本願寺本山ではご命日の一月十六日に、全国の各寺ではその前に営まれます。

親鸞聖人は、自分の努力ではどうしようもない生・老・病・死の苦しみと向き合い、その苦しみを超えてゆく道をお示しくされました。それは阿弥陀如来の願いを信じてお念仏を申し、仏となる道でした。報恩講は、聖人のご遺徳を偲ぶとともに、今私がお念仏のみ教えに出会えたことを感謝させていただく大切な法要です。

誓願寺初代住職 故岡本泰雄 法話

やさしい教え



今日、浄土真宗を開かれた方は、親鸞聖人だといわれております。親鸞聖人ご自身は、浄土真宗という一つの宗派を開いたとはおっしゃってられません。後の人たちが、浄土真宗の教えを説かれたのは、親鸞聖人ですから、親鸞聖人が開かれたということになったのであります。

親鸞聖人は「聞かせていただいたことを喜び、得させていただいたことを喜ぶ」ものであるとおっしゃっております。

この尊い教えは、私が発見したものでなければ、創作したのではない。聞かせて頂いたのである。得させて頂いたのだといわれるのであります。

「弥陀の本願が真実でありますから、釈尊のみ教えも真実である。釈尊の教えが真実であるから、善導さまの仰せも真実である。善導さまの仰せが真実であるから、法然さまの仰せも真実である。さればこの親鸞の申すこともまた、いつわりではないのではあるまいか。」と語っておられるのを見て、明らかであります。

「わたしには一人の弟子もない。みんな兄弟なのだ」とおっしゃって私の頂く信心も如来より頂いたもの、あなたの頂く信心も如来より賜ったものと、言っておられます。

「いただく」ということは、少しも難しいことはありません。ただ

頂くのであります。

南無阿弥陀仏ということは、「私を頼めよ。私に任せよ」という、ほとけさまのお呼び声であります。

迷いの中で苦しみ悩んでいる私に、呼びかけて下さるお慈悲の声であります。

「闇に迷うあなたを救うことが出来ないなら、決して仏とは成らぬ」と誓われて、永い間のお考えとご苦勞の後に、この願いを達成されたのであります。

迷える私を救い遂げてくださる力、このみ仏の真実が込められたものが、南無阿弥陀仏のみ名であります。必ず救いとして下さるという、み仏の真心をいただいて、お念仏申すのであります。

私がお念仏申すということは、我を頼めよの、み仏のお呼び声であり、同時にそれは、阿弥陀様を頼みにする、お任せするということであつて、それはそのまま「ありがとうございます」という感謝の言葉ともなるのであります。

阿弥陀さまの懷にいだかれ、光のなかに包まれていることを知らされてみれば、ただ「ありがとうございます」よりほかにはありません。祈りや願いは一切いらないのであります。「どこでも、いつでも、光の中に包まれている。ありがとうございます」これが南無阿弥陀仏であります。こんなにやさしい尊い教えがどこにありましょうか。難しいと思うのは、自分自身で難しくしているのです。

おれは偉いんだぞ、何でもわかつているのだぞと考えたり、反対に、私のような悪い者ではと嘆いたり、何とかしようと気張ったりするが

ら、難しくなるのであります。

難しいことを注文しても、何一つ出来ない私であること。毎日毎日欲望に追われ、腹立ち、悔やむこの私をすべてご存知であればこそ「我に任せよ」と呼んでくださるのであります。

「こんな者をようこそ」と、仰せのままに頂くばかりであります。仰せのままに頂くとき、阿弥陀様のお光りが、いたり届いて下さるから、疑いの闇はいつか晴れ、お蔭さまでと安心させて頂き、幸せ者よと、喜ばせていただくのであります。

こうなると、光の中の日暮らしでありますから、いままで気づかなかったことが、知らされてくるのであります。

自分の思い違いに気づかせていただき、どちらを向いてもご恩ばかり。ああ幸せ者よと、念仏申さずにはおれないのであります。

しかし、この肉体のある限り、欲も起こり、腹も立ち、愚痴もこぼれます。こんな思いの起こるはしからお念仏が出て下さるので、こんな浅ましい者をお目当てとは何という尊いお慈悲であらうかと、いっしか安心と感謝にかえさせていただくのであります。

浄土真宗のみ教えは、阿弥陀様のご本願（私を必ず救うという真心）を、信じて念仏申す身となると、必ずお浄土に生まれ、阿弥陀様と同じ悟りの身とならせていただくという教えであります。

この尊いお心を頂いたうえからは、報恩感謝の生活が営まれ、いのちのかぎり精一杯に働き、ご恩に報いさせていただくのであります。「せねばならぬ」という力みではなく「せずにはおれぬ」と、お念仏に励まされて立ち働かせていただくのみであります。

合掌

親鸞聖人を偲ぶ

誓願寺副住職 古賀明德

浄

土真宗では「報恩講」という法要が行われます。親鸞聖人のご命日（旧暦十一月二十八日）に、聖人を偲びながら、勤められる法要です。

明

治時代に旧暦から新暦に変更され、その際、旧暦の十一月二十八日は、新暦の一月十六日に該当したため、京都の西本願寺では、一月十六日に合わせて一週間（二月九日から一月十六日まで）報恩講が勤められています。

東京の築地本願寺でも当然ながら報恩講が勤められているのですが、旧暦の十一月を基準に行い一月には行いません。時期が重なりと京都の西本願寺にお参りに来ることが難しくなるからとも言われています。

現在、浄土真宗の多くのお寺が、十月の末から十一月に報恩講を勤めています。そのため、報恩講の期間は十月から一月末までとされているのです。

報恩講の起源は、親鸞聖人のひ孫覚如上人が、親鸞聖人の三十三回忌法要を勤められたところから始まっています。親鸞聖人がご往生された年が千二百六十三年ですから、およそ千三百年頃には始まっていた法要です。かれこれ七百年以上も続いているのです。誓願寺においても十一月の第四週日曜日に報恩講の法座をお勤めさせていただいております。

恩

に報いる。私たちが浄土真宗、阿弥陀様の救いをお聞かせいただくことができるのは親鸞聖人のおかげであります。しかし、なんとなく私たちは親鸞聖人と直接お会いし、お話しすることが無いため、遠い存在のように感じてしまいます。そのような時、こう思ってみてはいかがでしょうか。

私たちには今阿弥陀様のみ教えをお聞かせいただくことができる「きつかけ」となれた方がいらつしやるでしょう。大好きだった故人様、初めて法話を聞いた時に面白く惹かれるありがたいお話をしてくださったお坊さん、もしかしたらある作家さんが書かれた興味深い本を読んで浄土真宗に惹かれた方もいらつしやるかもしれません。

他にもたくさんの方がいて、誰もが一人は思いつくことでしょう。その方は間違いなく親鸞聖人のお心を継いで、この私に繋いでくださいました。そして、その方にお心を継いでくださった方、どんどんどんどんさかのぼると親鸞聖人に必ず繋がるのです。その方と出遇えた「ご縁のきつかけ」は間違いなく親鸞聖人なのです。

そう考えると、親鸞聖人がいてくださったからこそと思うことができ、感謝の気持ちがわいてくるのではないでしょうか。

では、どのように親鸞聖人にご恩をお返ししたら良いのでしょうか。それは、親鸞聖人が最も大切にしてくださった阿弥陀様から頂いた

「南無阿弥陀仏」のお念仏を大切にさせていただくことだと思います。

きつと阿弥陀様に救われてお浄土で仏様と成られた親鸞聖人は、今この私をご覧になられていて、この口からその生涯を通じて多くの方に伝えてくださった「南無阿弥陀仏」のお念仏が出ている姿を間違いなく喜んでくださっていると思います。この私が救われてい

いるのです。

報

恩講という法要をきつかけとして改めて親鸞聖人に感謝させていただくと共に、お救い下さる阿弥陀様のお心に触れさせていただく、それが浄土真宗における報恩講のお勤めです。



2/2

【ご法座等のご案内】

11月

11・8 (日)

■ 午前十時

定例法座【上野隆平師】

■ 正午

医療相談【佐藤公彦医師】

佛具のお磨き

11・15 (日)

■ 午前十時

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生まで)

11・22 (日)

■ 午後一時

報恩講 祥月命日合同法要

【文殊四郎琢磨師】

12月

12・13 (日)

■ 午前十時

定例法座 祥月命日合同法要

■ 正午

医療相談【佐藤公彦医師】

12・20 (日)

■ 午前十時

なかよしクラブ

12・31 (木)

■ 午後十一時三十分

除夜会 *年越しの鐘を撞きませんか

1・1 (金)

■ 午後一時

元旦会